



ドラコンでは高難度の種目で、運転技術の向上を推進

ロジパルエクスプレス（馬場範夫社長、東京都葛飾区）は、ドライバーの健康管理を重視すると共に、運転技術の向上に努めている。居眠り運転警告装置を試験的に導入したほか、毎年トラックドライバーコンテストを開催。こうした取り組みが奏功し、事故の発件数はピーク時の2003年に比べ半減している。導入した装置は、JURK Iの「スリープバスター」。柴田昇常務は「関越自動車道の高速ツアーバス事故

事故件数、ピーク時から半減

ロジパルエクス

で、居眠り運転が事故原因になったことを受け、2台購入した。居眠り状態になる10分ほど前に音声で警告があり、事故防止の面で信頼性が高い」と話す。

当面は試験的な運用を行い、最終的には全国の営業所に15台ほど配備する。勤務時間が不規則なドライバーに優先して装着させるなど適用ルールを整備し、居眠り事故の防止を図る。こ

健康管理と運転技術向上

れと並行して、ドライバーに十分な睡眠時間の確保を呼び掛けるなど、自主的な健康管理も促していく。また、6月には事故削減や安全性の向上を目的に、3回目のドラコンを開催。全国の営業所から3年以上無事故・無違反などの規定をクリアした優秀なドライバー8人が出場し、学科、整備点検、実技の総合点を競い合った。

学科では道路交通法への理解度、整備点検では時間内に各部を正しく点検できるかを求めた。実技はSバック車庫入れ、隘路走行、パイロンスラローム・法規走行の3種目を行い、タイムも計測。特に最終競技のスラロームでは、バックによるシグザグ走行など難易度の高い項目も設けた。

こうした取り組みを通じて、ドライバーの健康管理や運転技術の向上を図ることで、安全面への意識もアップした。同社は、今後も安全な輸送サービスの提供を目指す。

（山上 隼人）